



みみらんど通信

発行 福島県立聴覚支援学校 会津校 令和4年3月18日 第2号

子育て座談会開催

先日、東北福祉大学の西 孝志 先生との子育て座談会を開催しました。新型コロナウイルスの影響で、オンラインでの座談会になりましたが、希望された在校生の保護者、そして早期教育相談教室「みみちゃん教室」の保護者の皆さんが、個別に子育てや言葉の育ちについて、大西先生にご相談し、助言をいただきました。今回は、保護者と大西先生のやりとりの一部をご紹介します。



【座談会より】

Q：絵日記に毎日同じようなことを書くのですが、どうしたらよいのでしょうか？

A：日記は本来、誰かに見せるものでも感動させるものでもない。まずは「いつ」「どこで」「だれが」「なにをした」「どうだった」ということが自分で書けることが大切。それがスラスラできるようになったら、さらにやりとりを深めて「〇〇みたいだね」「ママは〇〇と感じたよ」などと表現を広げていけばよい。

Q：補聴器がなくても聞こえているような気がするのですが、常時使用した方がいいですか？

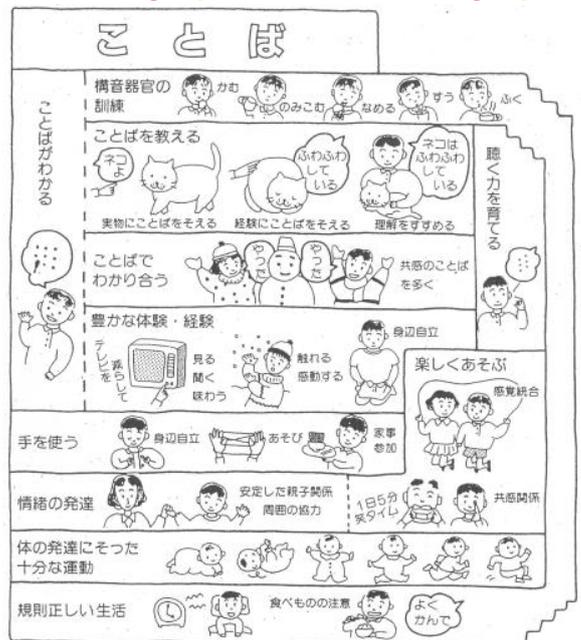
A：音として聞こえているのと、言葉として認識するのは違う。特に賑やかな場所、大人数の場所では、聞き落とすことが多い。「聞きたい時期・聞かなくてはいけない時期」に抵抗なく装着できるように、幼児期から慣れさせたい。



みみちゃん教室

今年度のみみちゃん教室は、1歳さんのグループ活動を設定しました。

保護者の皆さんから、ことばを育てたいとの相談が多く寄せられました。聴覚障がいの有無にかかわらず、ことば育ちを促すためには、生活のリズムを整え、体や気持ちを育てるかわりがとても大切です。安心、安全な生活の上に、体や気持ちが積み上がり、右の図のようなしっかりした言葉のビルになります。幼児期だけでなく、児童期、思春期でも配慮したいことです。



〔本棚より〕

「親子の手話じてん」 全国早期支援研究協議会編

新しい手話辞典をいただきました！

親子で手話を学ぶのにぴったりの辞典です。

「難聴児・生徒理解ハンドブック」

PTAで購入しました！就学先を考えたり、聞こえるお友だちと活動する時の注意点や思春期の支援など参考になります。

貸出をご希望の方は、お気軽にお声かけください。

